

令和2年9月24日

TBSテレビ「グッとラック！」
プロデューサー様・ディレクター様
番組製作部 担当者様

#KuToo署名発信者 石川優実
y.i.epicday.1.1@gmail.com

**TBSテレビ「グッとラック！」2020年9月22日放送
映画「82年生まれ、キム・ジョン」特集コーナーに関する公開質問状**

2020年9月22日放送の「グッとラック！」において、映画「82年生まれ、キム・ジョン」の特集がありました。そのコーナー内で、「女性差別」や「性暴力」について出演者から誤った認識を助長する数々の発言が見受けられました。「女性差別」を社会へ提議している映画を紹介するコーナーにおいて、物語内で提議される数々の「女性差別」がまさに番組内で再現されていたことに強い憤りを覚えるとともに、放送内容が社会に与える影響の大きさを危惧しております。

特集の意図は作品を紹介することで、社会に根強く残る「女性差別」をメディアとして広く視聴者に訴えかけ、「差別のない誰もが生きやすい社会」を推進するのだと捉えております。それは女性アナウンサーがコーナー最後に発されました「少しずつ女性の生きづらさ、軽減できたらと思います。」という言葉が象徴しています。

そのように本来的には真摯な問題提議であったとしても、実際に放送された内容としましては出演者のやりとりを通じて、番組制作側が訴えたかった内容や映画が問いかける内容とは真逆の結論が導き出されているように受け取りました。

つきましてはプロデューサー様・ディレクター様・番組製作部担当者様に対し、後記の諸事項について質問いたします。二週間後の10月8日までに書面での回答を賜りたく存じます。

その際「視聴者に不快な思いをさせた」といった理由で、問題点を「受け取る側の気持ちの問題」にすり替えた回答ではなく、番組制作における問題点を正確にご認識された上での真摯な回答を

望みます。なお、こちらの公開質問状は提出した時点で差出人や賛同者のSNSアカウント・個人のHPなどで公開し、回答がない場合はその旨も公表させていただきます。

賛同人(五十音順)

飯田光穂 WEBメディアNOISIE編集長

石河敦子

出田阿生 新聞記者

大塚照代

大貫詩織 助産師

大山美佐子 出版社勤務

小川たまか ライター

小川真知子

戒能民江・周藤由美子 性暴力禁止法をつくろうネットワーク

神永 れい子 クオータ制の実現をめざす会

川口英里子

姜 喜代 同志社大学 博士後期課程

木元栄子・安田晶子 Alliance YouToo

草野由貴

倉重 都 弁護士

斎藤明日美 一般社団法人Waffle

佐藤齊華 帝京大学教員

佐藤 瑞枝 戦後の女性記録継承プロジェクト

柴田なるみ JAWW 会員

高木さとこ 立憲民主党・狛江市議会議員

竹信三恵子 ジャーナリスト・和光大学名誉教授

田中美津 鍼灸師

富永桂子 非常勤教員

長澤紀美子 高知県立大学 教員

野村羊子 三鷹市議会議員・全国フェミニスト議員連盟

はたのまさこ

林美子 ジャーナリスト

細野かよこ

細谷実 関東学院大学教員（哲学）

松尾亜紀子・竹花帶子 エトセトラブックス

宮城公子 沖縄大学人文学部教員 同大学大学院研究科長

宮本有紀 編集記者

山田亜紀子 株式会社現代書館

吉田 隆 豊島・女性施策を考える会

吉峯美和 ドキュメンタリー映画監督

渡辺照子 元派遣労働者

渡辺みえこ 日本文學研究者

—— 記 ——

- 1) 「女性差別に起因する女性の生きづらさ」を主題とした映画であるにもかかわらず、「男性の生きづらさ」や「男女ともに生きづらさがある」といった意見を被せることで、「女性差別」をないことにしているという認識はありますでしょうか？また、様々な「女性差別」の議論の場で同様の手法が女性の声を封じるために使われていることを認識していますでしょうか？

▼当該コメント

「男の方がつらい、女の方がつらい、ってどっちもあると思うんですよ。」

- 2) 痴漢をはじめとするあらゆる性暴力は重大な人権侵害で犯罪であるということ、またいかなる場合でも加害者に非があることを認識しておられるでしょうか？

3) 「痴漢」に関する議論の中で「スカートの長さ」を論点としたことは、女性が自由な服装をする権利を侵害しています。また「短いスカートを履いている側にも非があるので痴漢されても仕方ない」という誤った認識を助長していることを認識していますでしょうか？

▼当該コメント1

「お父さんが娘さんに言ってくれたことも『それは不注意だ』って言つてるととるか、『どういう風にしたら防げるかってことを教えてくれた』ととるかって、受け取り方にもよりますし、それがお父さんが娘のことを考えながら言ってくれたらまた受け取り方も変わってくると思うんで」

▼当該コメント2

「たとえばスカート短いっていうのも(場面写が)暗いから見えないんですけど、本当に実際電車で、ほぼもう、ほんとにギリギリの子たくさんいますよね？で、短いには短いのでそれは教育っていうその本当にこれグレーかなっていう。」

4) またこのように性暴力の被害者に非を追及する行為が「セカンドレイプ」と呼ばれており、たとえ身内が相手を思いやり心配をして言った場合でも該当すると認識していますでしょうか？

5) 「男性は満員の電車やバスでつり革を持たないと痴漢を疑われる」という問題を挙げていましたが、その状況は女性のせいではなく痴漢をする人(現状そのほとんどが男性)のせいであることを認識していますでしょうか？

▼当該コメント

「変な話、痴漢もそうだけど、男性は男性でたとえば電車とか満員、バスとかもそうだけど、つり革をつかまえてないと痴漢と間違えられちゃうとか。」

6) 映画内の様々な例が「共感した辛い言葉」として取り上げられていましたが、一人のコメントーターさんはその中で義母の件だけをピックアップし、「女性同士で足をひっぱりあっている」といったコメントをしていました。こうして、「女性差別は女性同士の問題である」という印象操作をしている認

識はありますでしょうか？番組内で取り上げていた例4つのうち、3つは男性から女性に対しての言動です。

▼当該コメント

「日本の場合ってその、女性が女性の足ひっぱってるのが多い気がするんです。この映画の中でもあったんですけど姑さんが女性の足ひっぱっちゃうじゃないですか。

まあ男性は男性の擁護をするんですけど、女性が女性の擁護をしないんで、さらに女性同士で働いてる女性と結婚してる女性で専業主婦の女性とでまたマウンティングのしあいとかして、なのでなんか味方をどつかで減らして感じがするんですよね、女性が。」

7) 「女性差別」や「女性の生きづらさ」を「個人や各家庭の問題」とするコメントがありましたが、それであれば個々の家庭ごとに問題点が違うはずです。しかし、被害や負担を被る側の性別が女性側に明らかに偏っていることが問題であること、またそのように「社会全体・男性中心の社会制度の問題ではなく個人の問題」と「女性差別」が矮小化され、今まで解決されてこなかった現状を認識していますでしょうか？

▼当該コメント

「なんかその社会の問題っていうより単にその結婚に対しての考え方の問題だと思うんですね。」

8) 「女性差別」や「性暴力」について、放送当日の出演者の方はどの程度学び、どんな専門知識を持たれているのでしょうか？それらの専門的な知識を持っている出演者がいるようには思えませんでしたが、「差別」や「性暴力」といった非常に深刻な「人権問題」について専門家が一人もいない中の発言を許容し、民放キー局の地上波番組が社会に対して誤った認識を与えることとその重大性について、番組製作側としてどのような認識を持っていますでしょうか？

9) バラエティ番組に近いワイドショーだとしても、日中の地上波で社会問題を議論する場において、コメンテーターは4名以上いるにも関わらず、何故男女半々ではないのでしょうか？なぜ60代男性1名、40代男性2名、30代女性1名と、男女ごとの年齢構成に偏りがあるのでしょうか？これは意

図的ではないにせよ、「男性の中に『若い女性』が紅一点」という構図に見えております。40代男性2名のうち、1名を60代女性にするだけでも、性別や年齢の偏りと、それによる社会の権力構造の再生産を解消することができます。

国際社会は2030年までに、社会のあらゆる指導的立場の男女比を50:50にしようとしています。貴番組は番組制作にあたり、社会意識に大きく影響を与えていることを自覚しておられるのでしょうか？

以上